



七福神の石柱 ～ 弁財天 ～



外販課 山島 秀章

六月（水無月）、ということで今回は水の神様で知られる弁財天さんについて調べてみました。七福神（大黒天、恵比寿、弁財天、毘沙門天、布袋尊、福祿寿、寿老人）の石柱としても知られている弁財天は唯一の女神で、ルーツは古代インドの水の神サラスヴァティです。サラスは「水」を意味することから河がもたらす恵みから豊穡の女神と言われています。

●弁財天の像

八臂弁才天像

日本の多くの神社や寺院に残る弁財天の仏像は八臂弁才天像と呼ばれる形式です。この八臂弁才天と言う姿は、「金光明最勝王教」というお経で描かれる弁財天の姿です。

有名な逸話で、鎌倉幕府を開いた源頼朝が頼朝に従わない奥州藤原秀衡（ひでひら）を征討しに行くときに、江島神社に現存する八臂弁財天像を造り、戦勝祈願し、栄華を極めた奥州藤原氏を滅亡させます。弁財天信仰が広まった初期の頃の珍しい仏像が比叡山延暦寺に残っています。

●弁財天と宇賀神

弁財天の信仰が広まるにつれて、日本に古来から祀られている神道の神様や、民間で信仰を集める水の神、豊穡の神と同一視されるようになります。

民間で信仰されていた神様の石柱で豊穡をもたらす“頭は老人”、“体は蛇”とされる宇賀神がいました。この宇賀神は弁財天と同一視されるようになります。弁財天のお使い（眷属）が蛇と考えられるようになったのは二柱が共に水の神・豊穡の神というご神格があったことから考えられています。

●弁財天と龍神の伝説

弁財天と龍神については様々な伝説があって、最も有名なのは、江ノ島に伝わる五頭龍と弁財天（弁才天）の伝説です。1500年前、鎌倉の深沢に五頭龍という龍が住み、田畑を荒らしたり、このあたりに災害をもたらしていたとされます。村人は生贄を与えるなどして、この五頭龍をなだめるも、苦しい生活をしていたところ、突如として美しい天女が波間から現れてきたそうです。

災いをもたらす五頭龍は弁財天を見て恋に落ち求婚します。しかし災いをもたらしたことを責められ断られてしまいます。諦めきれない五頭龍は善神となって村人に福をもたらすことを約束し、弁財天と結婚をすることになります。

日本三大弁財天

竹生島神社(滋賀県)

宝厳寺の創建は、奈良時代の聖武天皇の夢の中で、アマテラスオオミカミがこの竹生島の地に弁財天を祀りなさいという神勅を受けたこととされ、日本三大弁財天の中でも特に大弁財天と呼ばれる地です。

江島神社(神奈川県)

奉安堂に弁財天の仏像が祀られます。

厳島神社(広島県)

現在は神仏分離令の影響で、元々厳島神社の神宮寺であった大願寺に弁財天像が祀られます。

日本三大弁財天、もしくは日本五大弁財天と称される天河大辯財天社

天河大辯財天社（天河神社：奈良県）創建は飛鳥時代と言われ、修験道の開祖であり歴史書にも出てくる実在の人物の役行者が弁財天を祀ったことが創建の由来とされる神社です。

天河大辯財天社には不思議な話があります。

それはこの神社にお参りをしたいと思っても、呼ばれないと（縁がないと）神社にたどり着けずお参りできないというのです。

今年は竹生島神社と天河大辯財天社にお参りしたいと考えています。



参考資料: <https://shinto-bukkyo.net/bukkyo/>

橋本のつづき

デジタルアートミュージアム、私は初めて聞きました。オープンして間もない場所なのに、中下さん行動派ですね。私も不思議体験してみたいです。でも、遠いですよね。東京。ワイプできる特殊能力か、ドラえもん。どこでもドアがほしい。

七福神でおなじみの弁財天様はいろんな像が沢山あるんですね。私の知識は弁財天様というのはいくつかの楽器を持っているというくらいです。

（笑）個人的には大黒様が一番印象にあります。財宝の神様だからでしょうか。弁財天様も金運の神様でもありますね。その他にも学問・芸能・芸術・縁結び、恋愛成就の神様でもあるんです。これは真言を唱えなければ、『おん・そらそばでい・えい・そわか』運よ向いてこい！

アポロ新聞

世界初! デジタルアートミュージアム

ホームガス課 中下 裕司

今回は昨年6月に東京お台場にオープンしたデジタルアートミュージアム“チームラボ ボーダレス”のご紹介です！

境界のない1つの世界で さまよい、模索し、発見する

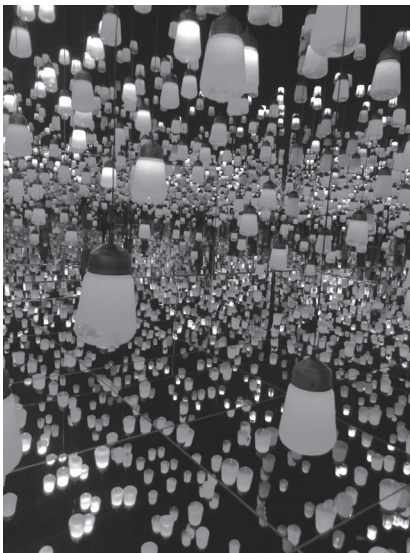
まず初めに驚くのはその大きさで、館内の広さはなんと1万㎡。量で換算するとおよそ5,000枚以上の広さにもなるそうです。そんな空間に広がる「Borderless＝境界のない」世界。来場者自身が自由に動き回り、例えば花に触れれば、花が舞うといった具合に作品と自身が共存し、作品自体も表情を変える。立体的で美しいデジタルアートを見るだけでなく“五感で体感する”ことができる新感覚のミュージアムです。

さまざまな作品空間があり、作品によっては歩くだけではなく、飛んだり跳ねたり、上下左右には鏡張りとなっているものまで存在します。1日でも時間が足りないぐらい見どころが満載で、不思議な感覚と感動に浸ることができます。

館内マップがない？



お台場以外にも、豊洲にありますので是非皆さん機会があれば体験してみたいかがでしょうか。



館内には全体マップといったものがない為、来場者が探索し、作品に触れ合い、溶け合うことができる場所にこのアートの最大の楽しみがあるのではないのでしょうか。

もちろん順路といったものもないため、自分が好きな空間に浸り、迷路を彷徨い、デジタルアートの色彩を楽しむことが可能です。私も実際に体感しましたが、驚きと感動の連続で“圧巻”という言葉がシックリとくるのではないかと思います。この感動はやはり言葉では伝えることが難しいですね。

花、動物、森、公園、運動、ボール、ランプ、鏡面、色、光、床、壁、天井、音、熱気など体験して思った事を単語にしてあげてみました。

小さなお子様から大人まで大満足できる“学ぶ未来の遊園地”だと思います。館内は少し薄暗いのでお子様と行かれる時は迷子にならないように手をつないで行動することなどが必要だと思います。また、動きやすい服装や靴で来館されることをお勧めします。